

■ 諮問事項「京丹後市まちづくり基本条例について、同条例第32条に基づく条例の検討及び見直しについて」

(前回会議録から意見の抜粋)

●文言に関すること

○第13条の「満20歳未満の青少年」という表記の仕方が、選挙権が18歳以上に変わっていることとの文言の整合性を図ったほうが良いのではないか。

●意見に関すること

○「京丹後市まちづくり基本条例」の存在を初めて知った。

○行政として、この条例のどこかに課題があるなどの認識があるのか、それとも時期が来たから投げかけたのか、この間に何かをしたなどといった事はあるのか。

○自治会長として自治区の運営について、この条例が念頭にあるかという正直ない。それと市民参加という基本原則があるが、この条例が本当に市民にしっかりと浸透しているのか。具体的には、次期民生委員を任期満了で新しく選出しているが、どの地区もだと思うが、なかなか理解してもらえず、まだ何地区か民生委員の選出がない。そこまで人口減少、過疎化、高齢化が進んでいるという背景があり、条例にある美しい言葉でうたわれているほど優しい状況ではない。そういう面でこの条例が、皆が理解しこの条例を作った当初の思いなどを、もう少ししっかりと市民への浸透させることや住民の意識の向上などの課題は感じている。

○色々な地域や場所で、乳幼児くらいの子ども向けの子育て支援に関する取組がたくさんされているというのは感じている。それが必要な人や場に行きわたっているのかは疑問であるが、口コミなどで少しずつ広がっていている感じはある。

○市民にこの条例の言葉を知らせるのではなくて、この条例によって市民がどう思うか、どう変わったかというのが重要だと思う。

○かなり前から市役所前のタイルが壊れている。いつ直るのか。市役所はみんなが来るし、入口もこの市役所素敵だな、綺麗にしてあるなという所から、市民が、市がどういう市政でいるかというのを感じると思います。そして、市が色々と企画したことに、よくなったなと実感するということは大事だと思うので、まずは身近なところから改革してくれたらと思う。

○まだ条例の中身まで知る必要がなく、いかにそれを自分の生活の中に生かせるかということが大切ではないかと思う。会議など何か特別な機会がある時に話をするのではなく、普段の生活の中で、親子や友達と普通に話す時に、まちづくりについて自然に話せるような社会が来なければ、これはなかなか実現しないのではないかと思う。

- NPO のことや市民活動のことは、京都府に言ってくださいという感じではないかと感じている。自治会でも協働といえば、区や自治会の協働で大変だと思うのですが、NPO との協働も考えてほしい。
- 見直しをする視点を意識しながら、条例を点検していくのは、大変な作業だなと感じた。
- 市民は条例を知っているのか点で、自分が知らなすぎたのか、市民の方は知っておられるのかなのかという点が気になった。
- 事業計画の段階で良い事業ではないかと思っても、実際やってみると、意識が低いのか広報の関係なのか、災害などのテーマでも人があまり集まらない。
- 自分の得意な分野から入っていき、気になる事や今取り組んでいることなどの観点で、この条例を見ていき、丁寧に意見を伝えていきたいと考えている。
- 外に出た子どもが帰ってくるためには、親の世代が帰ってくるなという親が結構いると思うので、その意識を変えないと、子どもが帰ってこようと思っても帰らなくていいんだと思うと思うので、子ども達が帰ってきたいと思うまちづくりにしないといけない。7個の目標を達成できたら、帰ってきたくなると思うので、難しいがここを目指しているかといけなと思うし、意識をしてもらっていったほうがいいと思う。
- 難しいけど、親が胸を張って子どもにいいまちなので、帰っておいでといえるというのがやはり良いまちだと思う。
- この条例の存在は知っていたが、市民の人に浸透しているかといったら、私もこの文章を読んで、なかなか頭に入ってこないし、行政的な言葉で書かれているものを、日常生活をしている中で読み解こうと思うとなかなか難しいと思う。
- 未来ラボに参加した時に、色々な人の意見がミックスした中で話せて、色々な事が動くという事を知れる場が出来てきたというのが良いと思っていて、この委員会もこの中だけで議論が収まらないでほしいと思う。
- アミラボに参加した時に、会議内だけで未来を決めようとしていて、せっかくみんなで作る場所だから、言ったことが叶わなかったとしても、そこに参加したという記憶が残れば、これからも関わり続けたいと思うのではないかということで、仕事後に託児所をつけて開催したが、1番来て欲しかった子育て世代の人が来ない。個人的にも声をかけたが、ママ友でそんなのに関心ある人いないし、自分達のことでも精一杯だと言われて、理由は、PTA や消防など従来通りの人口が多かった時代にやっていたことを人口が少なくなってもやり続ける。大事にしないといけないものは大事にしつつ、削除しないといけないことは削除していかないといけないような時代だと思う。もし不必要なところに時間を取られて、自分達の未来のことを考えられないようだったら、この条例でそういうのが和らげられるようなことを考えていけたら、まちづくりなど、どうにかして皆で考えられる仕組み作りみたいな話をしていけたらと思う。
- この条例が、自分達がどのように市政やまちづくりに関わっていくかという時の拠り所に

なるという話を聞き、納得ができたし意味があると思った。それは社協では、住民や行政、色々な団体が、どのようにしてまちを作っていくのかという地域福祉活動計画を立てているが、社協の職員も含め多くの方が、社協の計画だと間違われてしまっていて、苦勞して議論を交わして、オープンミーティングやパブコメなどをして作るのに、作り終わったら誰も見ない。何のためにやっているのかと思っていたが、拠り所に何をするとか、何かをするときの拠り所になるようなものを作るのだということを思うと、社協の職員として力をもらった感じがした。

○今地域福祉計画が第3次で、次の第4次を市と一緒に作りたと思っていて、この条例にもあるように、民間の福祉の団体と行政とが一緒になってできることを意識しながら、私たちも地域福祉活動計画を市と一緒に作っていくということが出来ると思うし、どういふふうに関わっていったかという評価であり、社協としては、そこが変わったと思われると思うし、計画を立てる時にも、言葉だけではなく本当にそうだと思い、個々で意識しながら、皆に関わってもらえるように話をしていくということが、私たちがどうやって次をやるのかということが大事だと分かって良かった。

○アミラボは、どこかに行けない理由はあったかもしれないが、関心度は非常に高かった。

○行政が何かしてくれるとか、何か受けるものだと思っている所が多く、自分がまちをより良くしていくという意識が出てきたらいいと思う。

○どんなことをして市やイベントを盛り上げようかなどを考えて活動していて、例えば官民一体といったようなイベントをもっと企画してもらいたいと思う。

○婚活事業やイベントなどを行っているが、若い人達が、こういった事にだんだんと興味がなくなってきているように感じており、どこか誰か任せというか、特に20代や30代もそうだが、そういった意識が薄れているような危機感を感じている。

○20代の知り合いとかに今度こんな事業をするからと誘っても興味が薄いし、かたい内容の場合は特にそうだが、良いことをやっていると思っているが無関心だなと思う。

○地域では、地域の自治機能をどうやって守っていくのが課題になっていて、現在取り組んでいるが、地域は何を決めるにしても1世帯1票なので、地域は色々な人が構成しているから、1人1票の構えが必要という事で、どうしたらそんな仕組みが組織できるのかを考えているところですが、防災訓練にしても、100%避難所に集まらないといけないというわけではなく、必要な人が避難所にいくということがポイントだと思うので、1人ではなかなか行動しない、呼びかけても来ない、それをどうやって防災意識を高めていこうかということを考えると、隣組で支え合っていき、ここが危ないと思ったら、誰がスイッチを入れるのかということだと思う。みんなで避難しようという仕組みを地域で作り上げていけば、危険な人全員が避難できたというのが大切だと思いますし、そういう考え方で地域と向き合っていきたいと思っている。

○従来のことだけでいっぱいになっていて、次の何か新しいことを考えにくいという事態があるようなので、そういった事をどうしていったらいいかという課題があると思う。それがもしも、この条例で何かしらの文言を変えたり入れたりすることによって、推進

できることがあるのであれば、それはやはり差し替えていくこともあるかと思う。

- 全体的に見て、目に見えることとの解離というのを考えないといけない。目に見える市役所内から始まって、あるいはイベントの時に人が集まっているのかどうか、20代を見た時に、自分達のイベントが浸透しないとか、社協で考えていくのも皆がというのもおっしゃっていたとおりだと思う。先に根拠というものを条文に見つけておくということが、すごく物事をやりやすくなるということがある。